

6. 型枠加工組立

一般に下拵えされる型枠部分は、木製の場合、柱型枠、梁型枠、壁、スラブの補助型枠、階段、基礎、その他特殊部分の型枠がある。

型枠組立ての精度および作業能率は加工場の選定、下拵えの精度および材料の集積の仕方等で大きな影響を受けるので、十分な計画を配慮する。

(1) 下拵え

基礎、1F、2F分は業者の加工場で行う。3F以上は各階で行う。

現地加工可能な部分、下拵えできる部分は、必ずこの段階で加工する

(コンクリートポンプ車によるコンクリート打設時のアンカー取付け、サッシ枠加工、防水欠込

防止等のため、なるべく半端材を用いる。

必要に応じて、現場で加工しない。

必要に応じて、現場で加工する

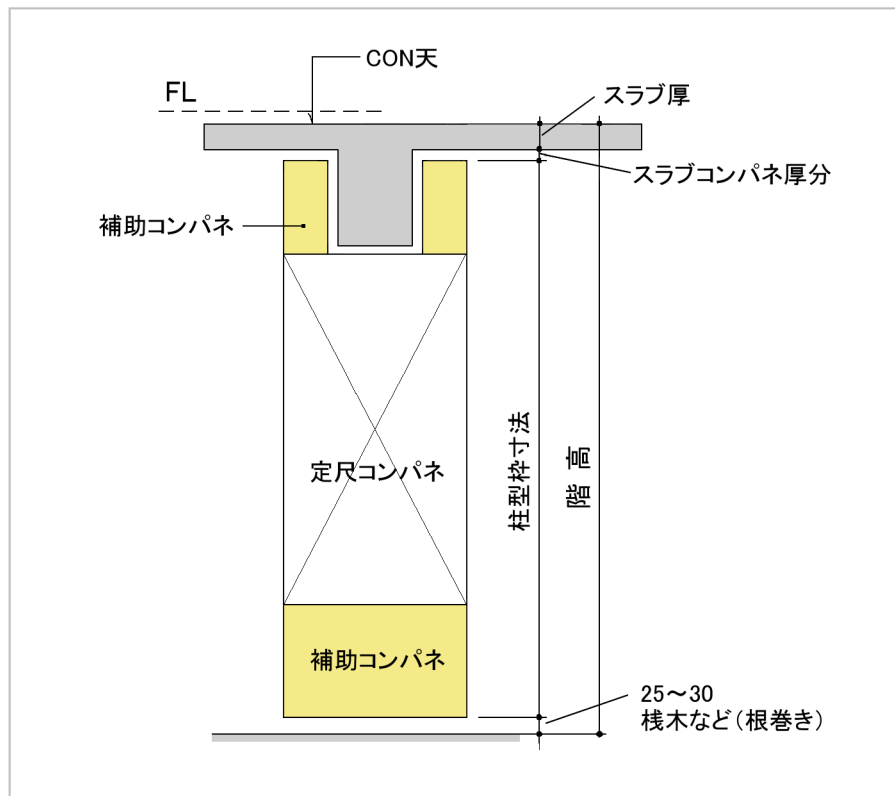
梁の加工は、現場で行う(使用時は梁底受タイプとする)

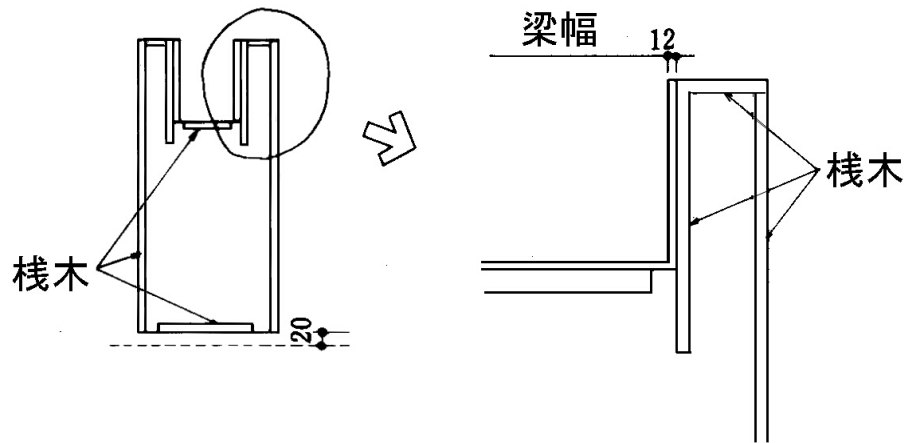
柱加工は

打放し壁は 600 パネル立使い両脇栈木とする

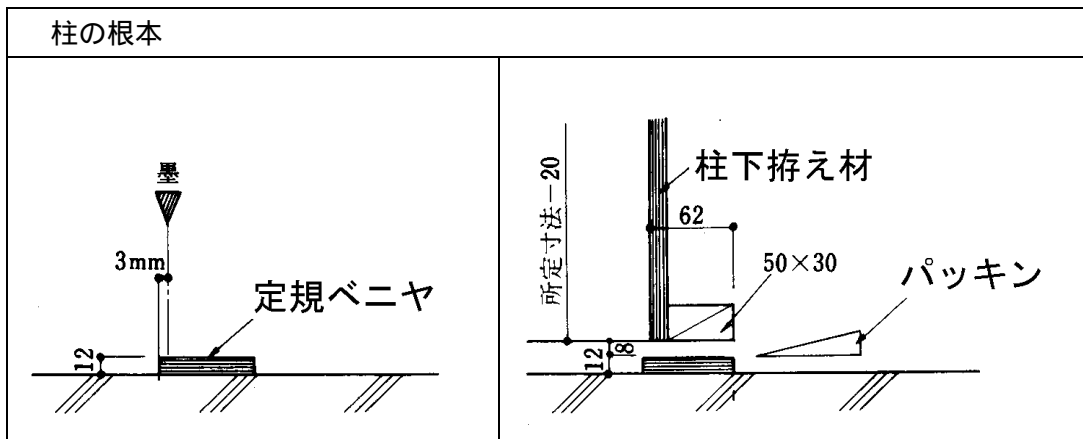
打放し面は割付図に従いセパレーター穴を前もってあけておく

1) 柱の下拵え



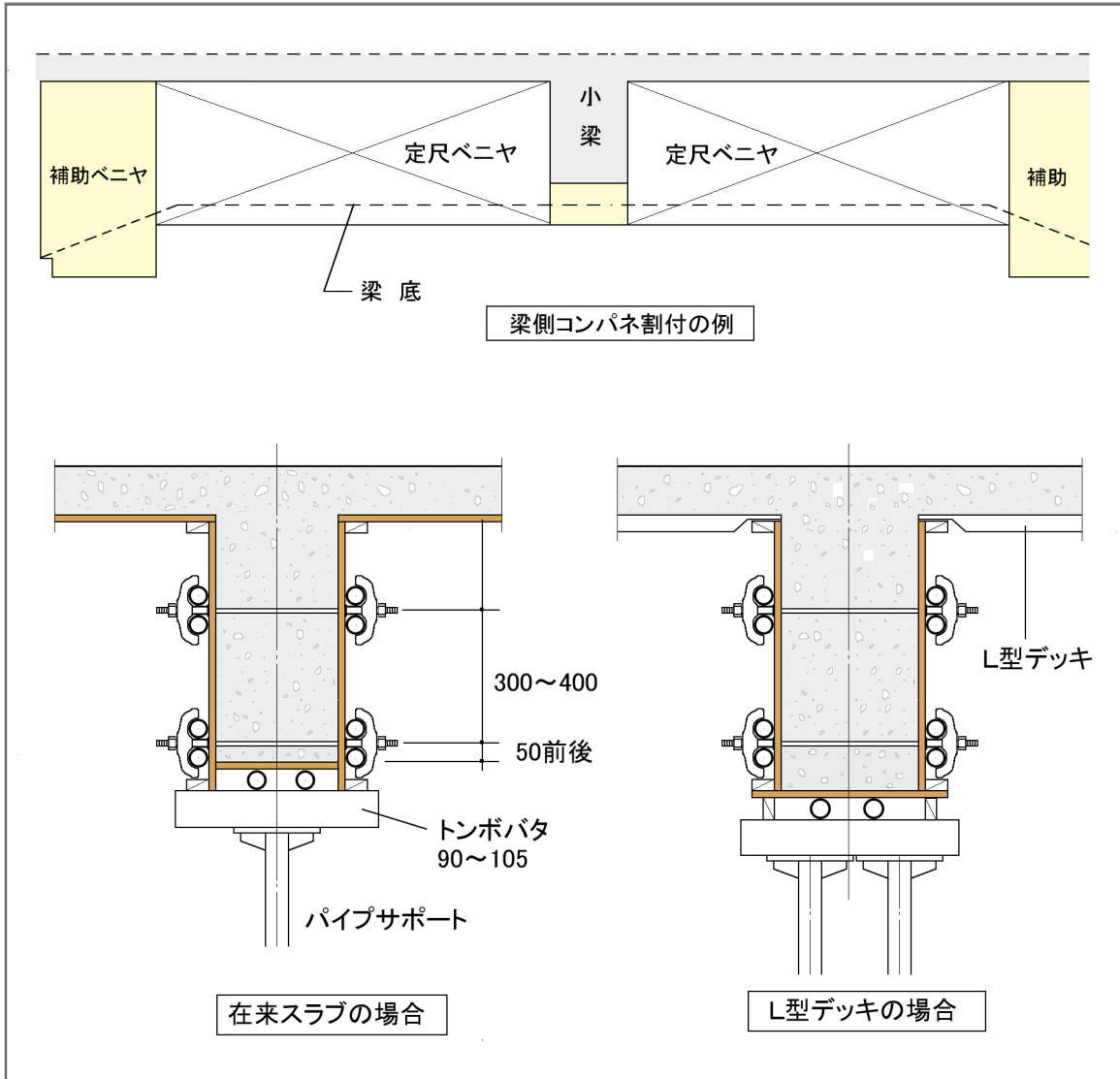


梁底は柱に乗せかけ、梁側は突き付けとする。



2) 梁の下拵え

- a. ベニヤパネルはできるだけ定尺のものを切断しないで使用するようになる。
 なお、梁型枠の組立て方には大別すると二つの方法があり、梁底をコンクリート寸法と同じく定尺のまま使用する方法と、梁底をできるだけ定尺に合わせる方法と、コンクリート寸法と同じとする方法がある。一般的に前者の方法で行われることが多い。(L型デッキ)
- b. 梁型枠の組立て方には大別すると二つの方法があり、梁底をコンクリート寸法と同じく定尺のまま使用する方法と、梁底をできるだけ定尺に合わせる方法と、コンクリート寸法と同じとする方法がある。一般的に前者の方法で行われることが多い。(L型デッキ)
- c. 梁型枠の組立て方には大別すると二つの方法があり、梁底をコンクリート寸法と同じく定尺のまま使用する方法と、梁底をできるだけ定尺に合わせる方法と、コンクリート寸法と同じとする方法がある。一般的に前者の方法で行われることが多い。(L型デッキ)
- d. 柱また、梁型枠の組立て方には大別すると二つの方法があり、梁底をコンクリート寸法と同じく定尺のまま使用する方法と、梁底をできるだけ定尺に合わせる方法と、コンクリート寸法と同じとする方法がある。一般的に前者の方法で行われることが多い。(L型デッキ)



3) 壁パネルの作製

- a. 壁パネルの目的は転用回数を多くすることにある。従って十分な検討打合せの上図面を作製し、パネルは連続して並べて建込むため、また何回も使用する。コンクリート片が付着して全体の寸法に伸び縮みしないよう十分に清掃する。
- b. 移り変わる部分に変更がない丈夫なものを作るよ
- c. にも利用できるよように作製し、るよように検討し、下拵えのとき
- d. 型枠のためハクリ剤を塗布しておく。ハクリ剤を使用する。
- e. 階段の下拵え
階高および段鼻によって、け込みと踏面の割付けを決めた現寸図（必ず担当責任者の

検査を受けたもの)をもとに、側板の下拵えをする。その側板にもできるだけ定尺物を切らないように組入れ、陸墨と段鼻の返り墨は現寸図に基づいて必ず記入しておく。

f. その他の特殊型枠の下拵え(R型枠等)

間違いを少なくするため、必ずコンクリート図および係員より検査された現寸図をもとにして下拵えをする。

(2) 型枠組立

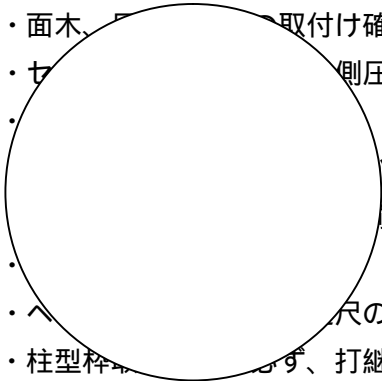
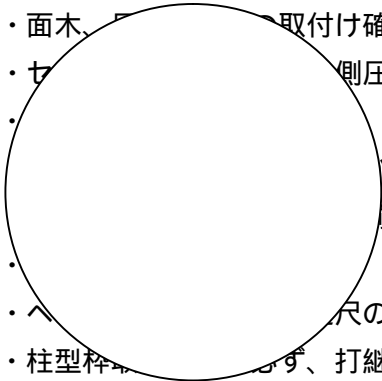
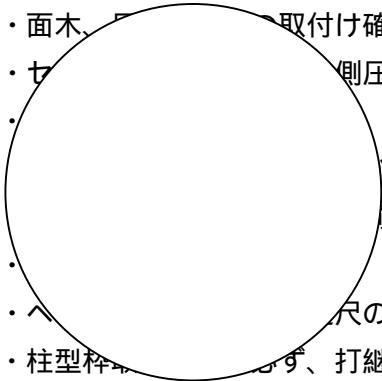
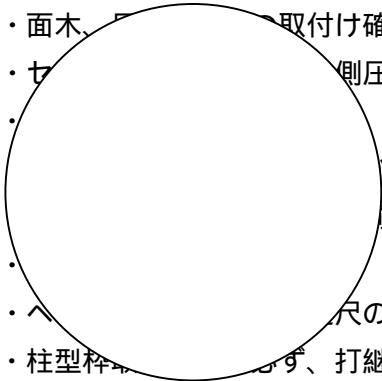
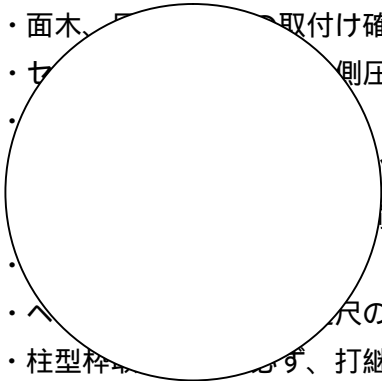
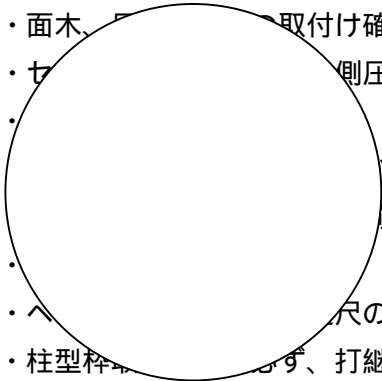
コンクリート型枠は、コンクリートを必要な決められた型に成型する鑄型である。また、コンクリートが硬化するまで型枠に留まるように配慮して組立てることが必要である。このため、型枠の材料、また打放し型枠についてはベニヤの割付および組立について十分に検討し、またコンクリート内部に取付け金物を忘れないように関連職種間との連絡および打合わせを怠らないように組立をする。

1) 型枠

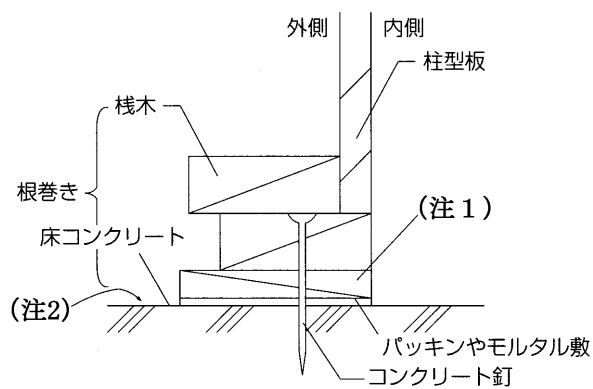
- a. 型枠はコンクリートに埋設する設備工事の箱、おおよそこれら他職種間との連絡および打合わせを十分に行う。
- b. 型枠は寸法が正確であり、かつ引通し良く建入れるとともに作業荷重、コンクリートの振動、衝撃に耐え、かつ、ひずみや、くるいが生じないように組立てる。
- c. せき板はコンクリートに食い込まないように組立て、またセメントペーストが漏出しないように注意する。
- d. 型枠の組立は、コンクリートを主体とし、釘またはなまし鉄線は補助的な使用とする。
- f. 組立は、現場の状況による。なお鋼製のタテは、コンクリートに食い込まないよう、かつ、かすがいでせき板に仮り止めしておく。
- g. 組立は、現場の状況による。また、必要に応じて、同時にチェーンまたはワイヤーを使用して、コンクリートに食い込まないように注意する。
- h. 組立は、現場の状況による。また、必要に応じて、チェーンまたはワイヤーを使用して、コンクリートに食い込まないように注意する。
- i. 型枠は、コンクリートに食い込まないように注意する。また、必要に応じて、チェーンまたはワイヤーを使用して、コンクリートに食い込まないように注意する。
- j. 地下部分の組立は、コンクリートに食い込まないように注意する。また、必要に応じて、チェーンまたはワイヤーを使用して、コンクリートに食い込まないように注意する。
- k. 作業中は常に、コンクリートに食い込まないように注意する。また、必要に応じて、チェーンまたはワイヤーを使用して、コンクリートに食い込まないように注意する。また、通路に近隣する開口部の手すり等の防護設備の取り付けもれに注意する。

2) 建込み

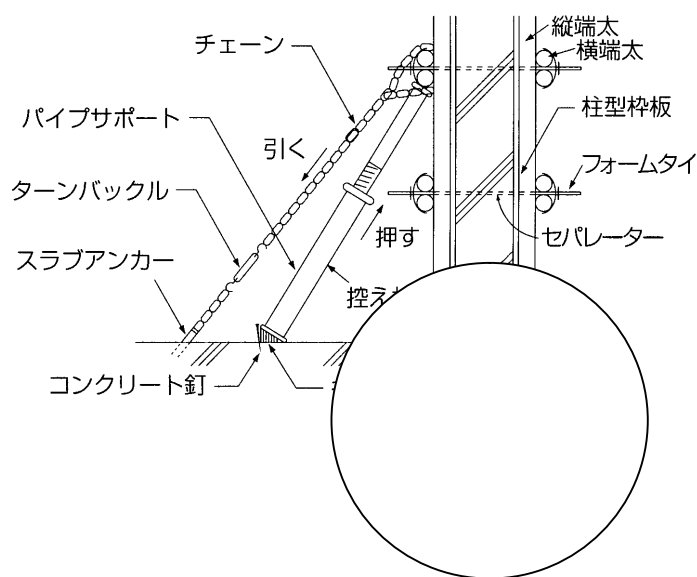
1) 柱建込み

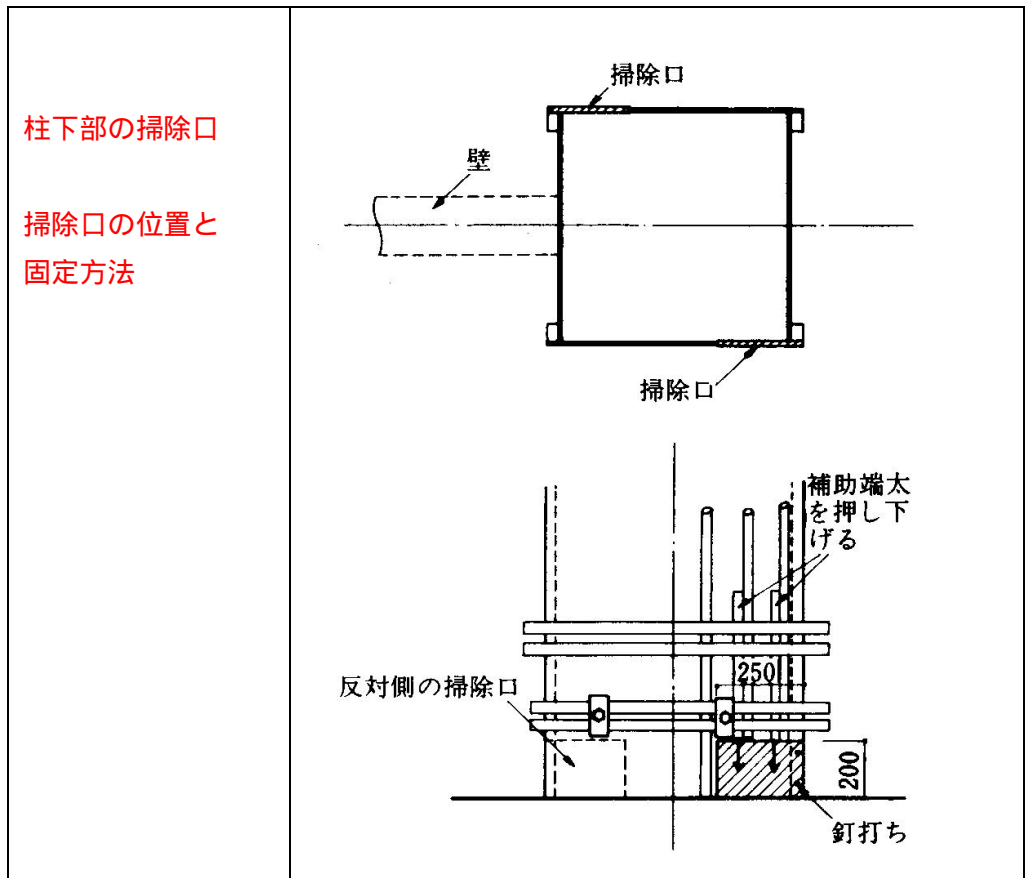
- ・面木、取付け確認をする。
- ・セ側圧を考慮する。
- ・が無いよう注意する。
- ・に行う。
- ・尺のものを、切断しないで使用するよう板取りする。
- ・柱型枠ず、打継ぎ面の掃除を行う。

壁型枠の根巻き



壁型枠控え

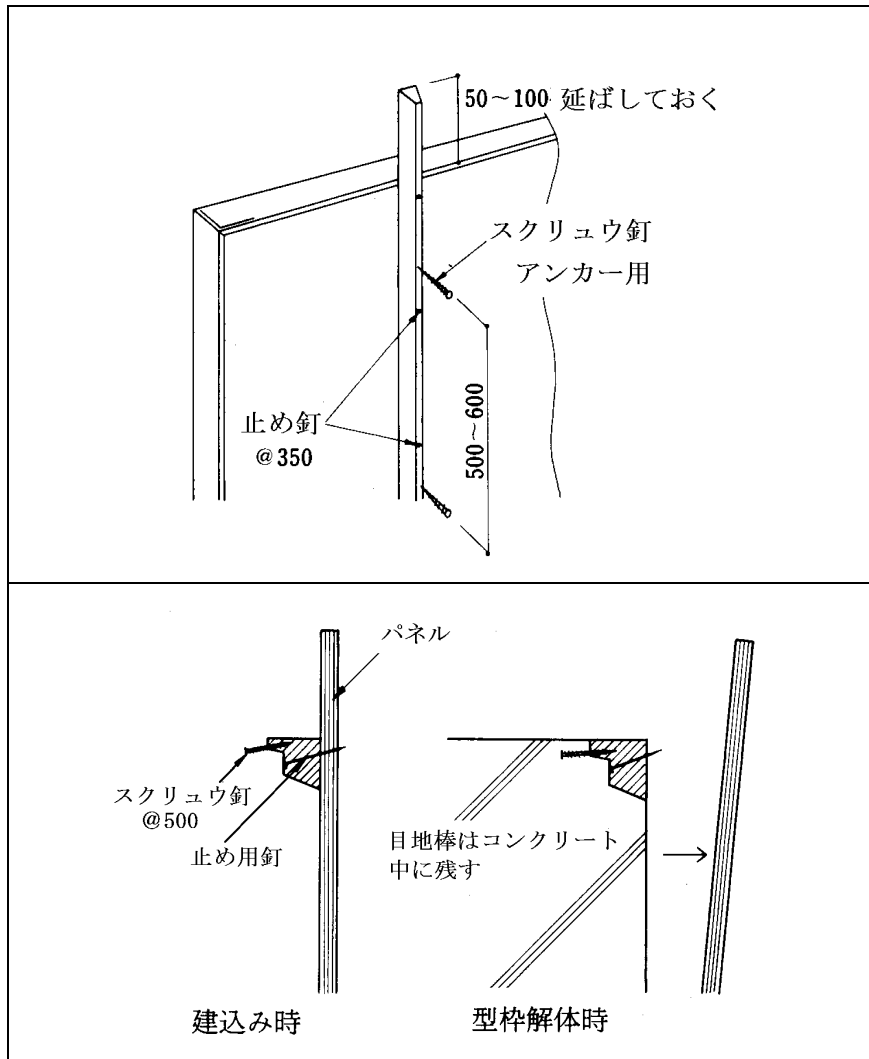




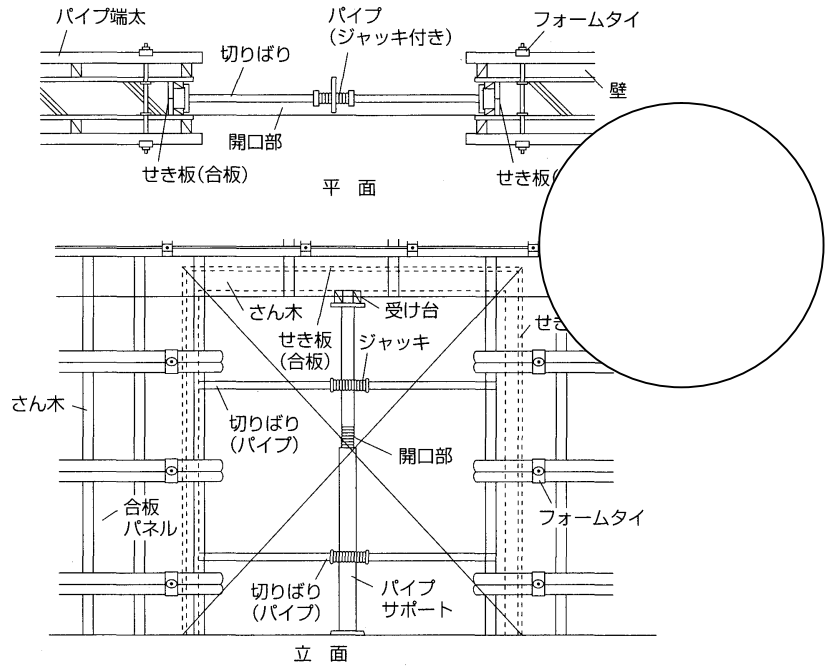
3) 壁建込み。

- ・せき板の割付は 600×1,800 横使い、打放しは 600×1,800 縦使いとする。
- ・セパレーターは木コンの高さがそろうようにする。
- ・開口部は必ず取付け、締過ぎによる型枠のふくらみを防ぐ。
- ・面木、目隠しは忘れがないよう気をつける。
- ・フォームタは必ず取付け、締過ぎによる型枠のふくらみを防ぐ。
- ・壁の建入検査はスラブ張り前に行う。

目地棒取り付け



開口部



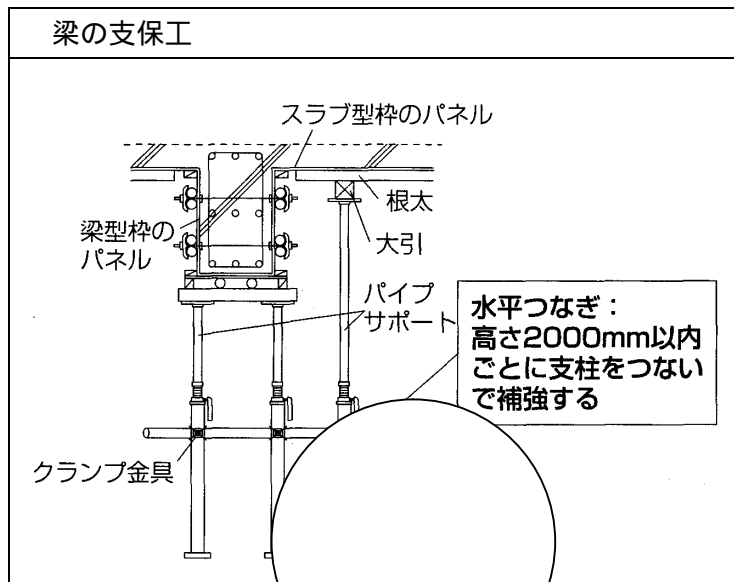
4) 梁建込み

全長寸法の確認を前もって行う。

水平精度の確認は、スラブ張り直前に再度行う。

サポートの間隔は、支保工計算書のとおりに従う。

地組は梁の真下で行う。

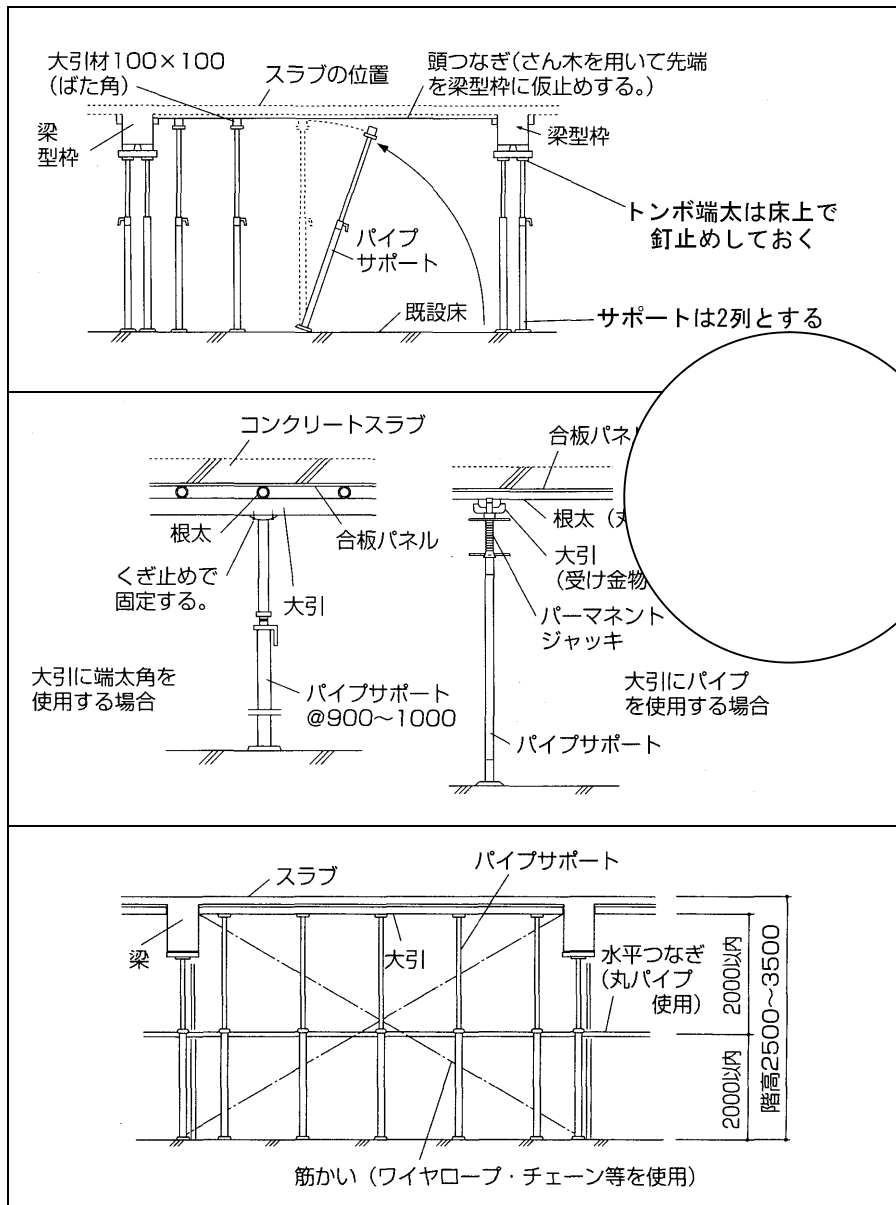


セパレーターの取付け

- ・梁底より 50mm の所に、1 箇所セパレータを取付ける。
- ・胴締めセパレータは使用せず、梁端太ボックス (KS 梁端太ボックス) およびビームクランプの併用により、梁側の座屈を防止する。
- ・梁揚げ後、聞き止めセパを 800mm 以内にとる。

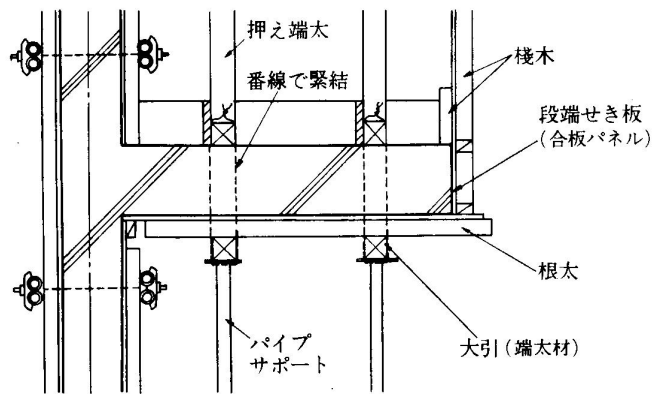
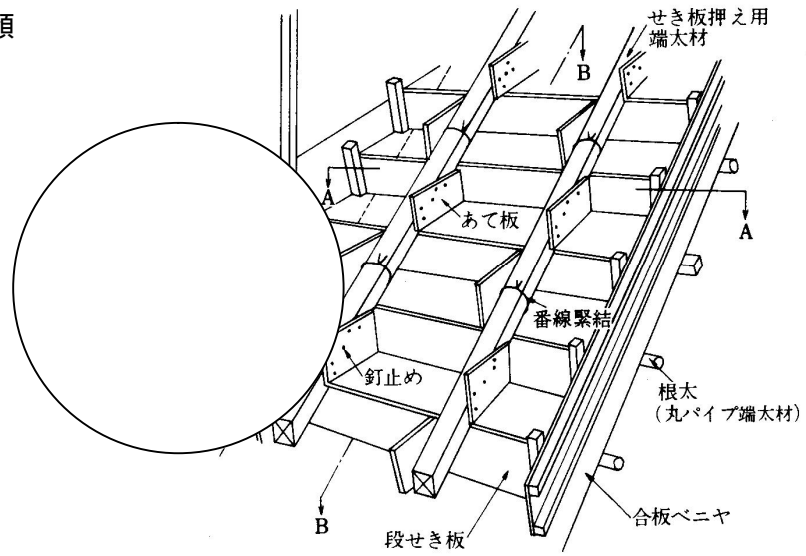
5) スラブ型

- ・ 材の通り、内法寸法の確認を前もって行う。
- ・ 割付けは支保工計算書の通りとする。
- ・ 高さ2m以内の場合は、高さ2m以内毎に水平つなぎを2方向に取る。
- ・ は古材使用も可とする。
- ・ スケールを見ながらサポートで調整する。

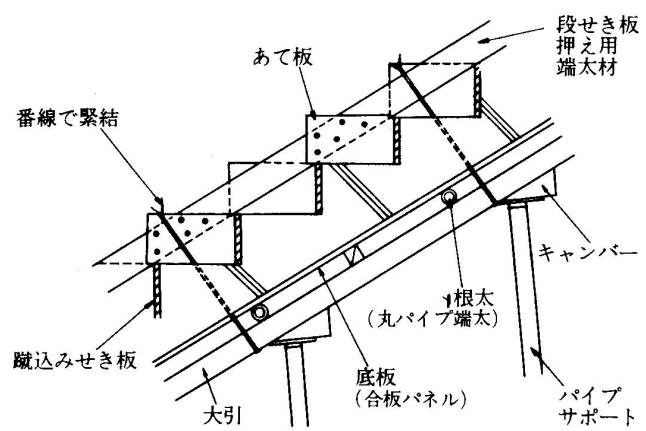


6) 階段

階段型枠施工要領

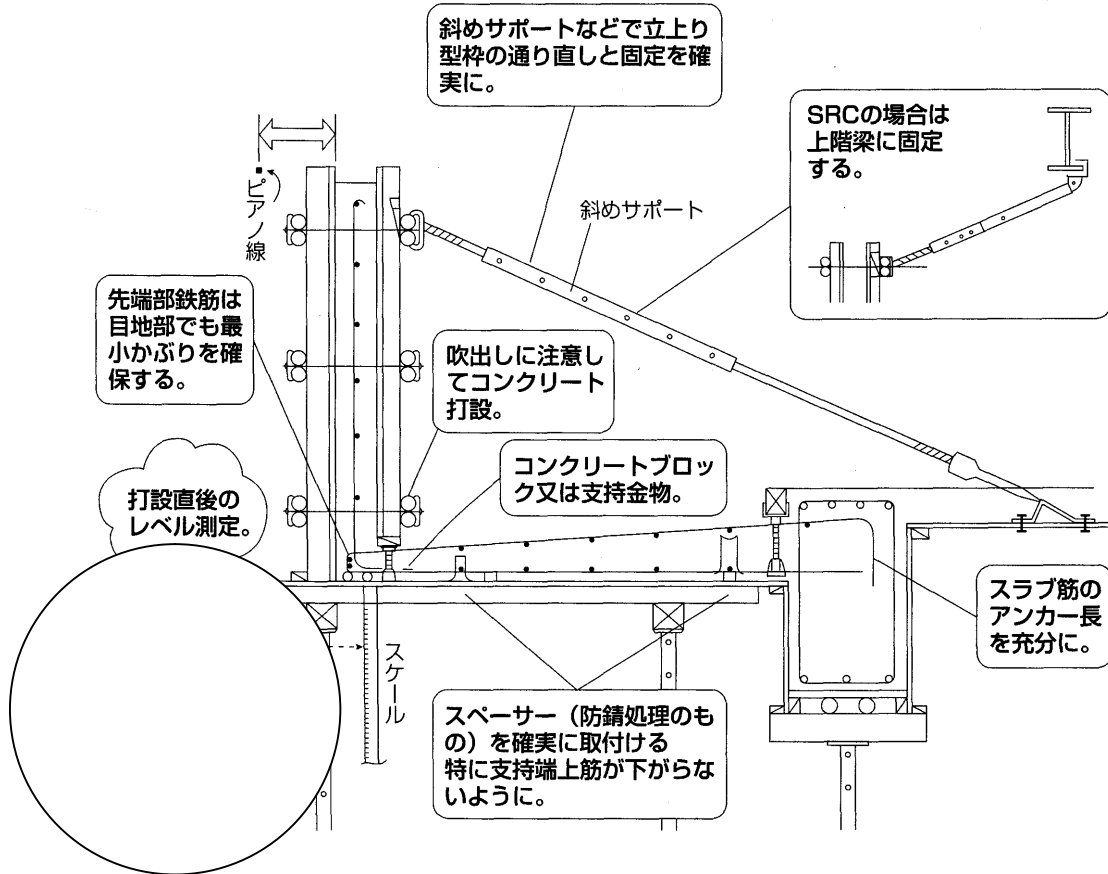


A-A 断面



B-B 断面

7) 腰手摺り壁



7) 打設中の相番

コンクリート打設中は2名の大工を相番につけ、下記の異常の発見とその処置に当たる。

- ・コンクリートの漏れ
- ・型枠のはらみ・移動
- ・支保工の異常
- ・外壁の通り確認（常時）
- ・スリーブアンカー入れ.....その他